

ふりがな 氏 名	はしもと ゆみ 橋本 侑美	職 名	講師
取得学位	修士(看護学)	学会での受賞歴	
主な担当科目	未定		
所属学会	日本小児看護学会、日本小児保健協会、日本新生児看護学会、小児在宅研究会、日本救急看護学会、日本蘇生学会、日本看護科学学会(令和3年12月～若手の会、エリアコーディネーター)、日本看護研究学会、日本看護シミュレーションラーニング学会		

◆ 教育業績

事 項	実 施 年月(日)	概 要
<ul style="list-style-type: none"> 患者体験の実施と紙面事例を用いた看護過程の展開演習 (愛知きわみ看護短期大学、在宅看護論) 	平成 29 年 4 月～5 月	愛知きわみ看護短期大学看護学科の 3 年生を対象とした「在宅看護論」において、小児看護学領域講師として、科目責任者と共に「看護過程の展開」の演習指導を行った。講義はグループワークを中心とし、グループへの助言を行った。また、適宜記録の回収を行い、個人記録へのコメントを行い、学生が在宅で生活する療養者を理解し、対象の在りたい姿を支えるために必要な健康課題を見出すことができるように支援した。
<ul style="list-style-type: none"> 在宅で生活する利用者と家族に求められる看護を訪問看護の実践を通して学ぶことを目標とした臨地実習指導 学習目標を明確にするためのシラバス、実習要項、記録用紙の作成と、オリエンテーションの実施 学生の学びを促進することを目的とした、臨地実習指導者会議の開催 (愛知きわみ看護短期大学、在宅看護実習) 	平成 29 年 4 月～7 月	愛知きわみ看護短期大学看護学科の 3 年生を対象とした「在宅看護実習」において、小児看護学領域講師として、科目責任者と共に臨地実習指導を行った。学生は実習中に 1 名の利用者を受け持ち、2 週間の実習で 4 回、受け持ち利用者宅への訪問ができるように、臨地実習指導者と調整を行った。受け持ち利用者宅への訪問回数が限られた中で、利用者の生活やありたい姿をアセスメントし、必要な看護を考え、見出すことができるように支援した。
<ul style="list-style-type: none"> 自作のワークシートを活用した講義・演習 知識の定着を目指した振り返りテストの活用 患者像のイメージ化を促進するため、視覚的教材と事例を用いた看護過程の展開演習 (愛知きわみ看護短期大学、疾病病態論) 	平成 29 年 10 月～平成 30 年 2 月	愛知きわみ看護短期大学看護学科の 2 年生を対象とした「疾病病態論Ⅱ・Ⅲ(再履修)」において、小児看護学領域講師として、30 回の講義を科目責任者として担当した。講義ではワークシートを用いた事前・事後学習を行い、知識の定着を促進した。講義毎に小テストと看護過程演習を行い、病態・診断・検査・治療の理解だけでなく、対象の検査・治療状況に応じた看護について考えることができるよう支援した。
<ul style="list-style-type: none"> 日常生活援助を必要とする対象の安全・安楽・自立を考え、実践することができることを目指した看護技術演習(シーツ交換、全身清拭、洗髪) 患者体験による学びを生かした、看護技術の振り返り (一宮研伸大学、基礎看護学Ⅳ) 	平成 29 年 10 月～11 月	一宮研伸大学看護学部の 1 年生を対象とした「基礎看護学Ⅱ」において、小児看護学領域助教として科目責任者と共に、技術演習を担当した。シーツ交換、全身清拭、洗髪の看護技術について、1 ベッド 4 名のグループを 4～5 グループ担当した。演習前の打ち合わせから参加し、学生が学習目標に沿った学びを得ることができるように支援した。演習中は、看護者としての言葉遣い、安全・安楽への配慮についてイメージできるように助言を行った。
<ul style="list-style-type: none"> 実際に起こりうる蘇生場面を想定した、乳児の一次救命処置(BLS)と窒息解除のシミュレーション演習 自作の視聴覚教材を用いた看護技術演習 検査、処置が必要なこどもに対して、「安全・安楽・自立」の視点を持つことのできる技術演習の工夫 (愛知きわみ看護短期大学、小児看護援助方法Ⅱ) 	平成 29 年 12 月	愛知きわみ看護短期大学看護学科の 2 年生を対象とした「小児看護援助方法Ⅱ」において、小児看護学領域講師として科目責任者と共に技術演習を担当した。乳児の一次救命処置では、自作の視聴覚教材を用い、基本手技や留意点を理解した上でシミュレーション演習に取り組むことを支援した。検査、処置が必要なこどもに対する看護では、対象の発達段階に合わせた説

事 項	実 施 年月(日)	概 要
<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を明確にするためのシラバス、実習要項、記録用紙の作成と、オリエンテーションの実施 ・学生の学びを促進することを目的とした、臨地実習指導者会議の開催 ・健康障害を呈するこどもと家族に必要な看護を見出し、実践することを目的とした、小児病棟での受け持ち看護実習 ・健康なこどもの成長、発達、生活環境を理解することを目的とした保育園実習 ・こどもと家族のありたい姿について考えるための、学内グループワーク実習 (愛知きわみ看護短期大学、小児看護学実習) 	平成30年5月～平成31年3月	<p>明やほめ方の工夫、安全・安楽・自立を促進するための看護について、グループで考えることができるように支援した。</p> <p>愛知きわみ看護短期大学看護学科の3年生を対象とした「小児看護学実習」において、小児看護学領域講師(科目責任者)として臨地実習指導を担当した。保育園実習4日間、病棟実習4日間を通して、あらゆる健康レベル・発達段階にあるこどもと家族を理解して、看護実践を行うことができるように支援した。再実習・追実習・再履修については、学内演習を再度行い、自らの思考を整理して、学びを深めることができるように支援した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を明確にするためのシラバス、実習要項、記録用紙の作成と、オリエンテーションの実施 ・学生の学びを促進することを目的とした、臨地実習指導者会議の開催 ・チームで看護を実践することを学習するために、固定チームナーシングを経験することのできる実習方法の構築(複数患者の受け持ち看護実習) ・多職種との関わり(看護師、保育士、セラピスト他)を体験することができる実習方法の構築と臨床講義の実施 ・リーダー、メンバー役割を実践することを目的としたシャドーイング実習 (愛知きわみ看護短期大学、統合看護学実習) 	平成30年11月～平成31年3月	<p>愛知きわみ看護短期大学看護学科の3年生を対象とした「統合看護学実習」において、小児看護学領域講師(科目責任者)として臨地実習指導を担当した。学生がチーム内で役割分担を行い、受け持ち患児の外来から病棟、退院後の初回外来までの看護を継続して実践することができるように支援した。チーム内で生じた課題は、指導者の助言のもと、改善策を検討し、病棟チームの一員として学びを深めることができるように支援した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床と共同して作成した、看護過程事例の活用(急性リンパ性白血病・川崎病・RSウイルス感染症) ・グループワークと発表、解説を組み合わせた看護過程演習の実施 ・事例を基にした状況設定シミュレーション演習 ・自作の視覚的教材を用いた技術演習 (一宮研伸大学、こどもの健康生活支援看護Ⅱ) 	平成31年4月～令和元年7月	<p>一宮研伸大学看護学部の3年生を対象とした「こどもの健康生活支援看護Ⅱ」において、小児看護学領域助教として講義・演習を担当した。講義では、グループワークや事例検討を活用し、学生が疾患の理解を深め、患児の状態の変化や治療状況の変化に合わせて、必要な看護を考えることができるように支援した。演習では、事例や視覚的教材を用い、実際の現場の状況を補足することで、学生のイメージが膨らむように支援した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通じた、看護過程演習・学生のグループワーク活動の促進と記録指導 ・視覚的教材を用いた演習(患者理解の促進) (一宮研伸大学、基礎看護学Ⅴ) 	平成31年4月～令和元年7月	<p>一宮研伸大学看護学部の2年生を対象とした「基礎看護学Ⅴ」において、小児看護学領域助教として科目責任者とともに講義・演習を担当した。学生が、事例をもとに「ヘンダーソン」の理論と枠組みを用いた看護過程の展開を行い、情報収集～看護計画の立案(アセスメント、統合の記載)をできるように支援した。学生が混乱している枠組みの理解や関連図の意味について、事例の患者を通して、学生が自分の言葉で説明できるよう、支援した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・既存の学びを実践に活用することを目的とした臨地実習指導方法の工夫(看護過程) ・コミュニケーション能力を促進するための受け持ち看護実習の工夫 ・看護職としての責任感を養うための受け持ち看護実習の工夫 (一宮研伸大学、基礎看護学実習Ⅱ) 	令和元年8月～9月	<p>一宮研伸大学看護学部の3年生を対象とした「基礎看護学実習Ⅱ」において、小児看護学領域助教として科目責任者と共に臨地実習指導を担当した。学生が「ヘンダーソン」の理論と枠組みを用いて、受け持ち患者のニーズを把握し、看護実践に繋げることができるように支援した。また、病棟指導者とともに、受け持ち患者とのコミュニケーションや看護援助場面に参加する機会を積極的に持つことができるように支援した。</p>

事 項	実 施 年月(日)	概 要
<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を明確にするためのシラバス、実習要項、記録用紙の作成と、オリエンテーションの実施 ・学生の学びを促進することを目的とした、臨地実習指導者会議の開催 ・シミュレーション演習、発達評価演習、危険予知トレーニングを活用した学内代替実習 ・国家試験問題を実習課題に取り込んだ学習支援(一宮研伸大学、こども健康生活支援実習) 	令和元年10月～令和2年7月	<p>一宮研伸大学看護学部の3年生、4年生を対象とした「こどもの健康生活支援看護実習」において、小児看護学領域助教として臨地実習指導を担当した。実習要項を作成し、病棟実習の主担当、外部施設との調整業務を担当した。</p> <p>COVID-19感染拡大に伴う学内代替実習では、シミュレーション演習、発達評価演習、危険予知トレーニング、国家試験を用いた課題学習を行い、学内実習においても、学生が本来の実習目標を達成できるように支援した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を明確にするための実習オリエンテーションの工夫 ・学生の学びを促進することを目的とした、臨地実習指導者との打ち合わせ ・学びを振り返りを促進するための、グループカンファレンスの工夫 ・電子書籍を用いた学習支援(一宮研伸大学、基礎看護学実習Ⅰ) 	令和2年2月	<p>一宮研伸大学看護学部の2年生を対象とした「基礎看護学実習Ⅰ」において、小児看護学領域助教として、科目責任者と共に臨地実習指導を担当した。個々の学生が1名の患者を受け持ち、日常生活援助の見学・実践、バイタルサイン測定の実施と患者の全身状態の評価ができるように支援した。学生が1日の実習目標を明確にし、受け持ち患者とのコミュニケーションや看護援助場面に参加する機会を積極的に持つことができるように支援した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・課題演習とグループワークを活用したゼミナール(レポートの書き方、報告、発表の仕方、文献検索) ・マルチメディア機器を用いた Word・Excel・PowerPoint の基本操作学習 ・テーマに沿った、文献検索の実施 ・オンライングループワーク ・Word・Excel・PowerPoint を用いた論文抄読会(一宮研伸大学、教養ゼミナール) 	令和2年4月～3月 令和3年4月～11月	<p>一宮研伸大学看護学部の1年生を対象とした「教養ゼミナール」において、小児看護学領域助教として科目責任者と共にゼミナールを担当した。課題学習とグループワーク学習を基盤とし、レポートの書き方、文献検索、パソコンの基本操作の理解を促進した。また、学生が選んだ原著論文を文献リストにまとめ、発表できるように支援した。グループワーク、論文の抄読会を通して、個々の学生が自分の意見を言語化することを支援した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用したオンデマンド講義(講義、演習動画を動画でオンデマンド配信) ・ICTを活用した双方向グループワーク(Google meet を用いたオンライン学習) ・ワークシートを活用した事前、事後学習の促進 ・感染に配慮した学内演習の実施 ・臨床と共同して作成した看護過程の事例作成(急性リンパ性白血病・川崎病・RSウイルス感染症) ・グループワークと発表、解説を組み合わせた看護過程演習の実施 ・自作の視覚的教材を用いた技術演習 ・事例を基にした状況設定シミュレーション演習(一宮研伸大学、こどもの健康生活支援看護Ⅱ) 	令和2年4月～7月	<p>一宮研伸大学看護学部の3年生を対象とした「こどもの健康生活支援看護Ⅱ」において、小児看護学領域助教として講義・演習を担当した。対面授業の代替として、ワークシートに基づき、講義をYouTubeで配信し、学生の理解を深めた。看護過程は、Google meet を使用したオンライン講義とし、グループワークが行える環境を整えた。演習科目は、講義時間数や配使用教室を増やし、事前に演習で用いるDVDをYouTube動画で視聴することで、演習での学びを促進した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を明確にするためのシラバス、実習要項、記録用紙の作成と、オリエンテーションの実施 ・学生の学びを促進することを目的とした、臨地実習指導者とのオンライン会議の開催 ・チームで看護を実践することを学習するために、固定チームナーシングを経験することのできる実習方法の構築(複数患者の受け持ち看護実習) ・多職種との関わり(看護師、保育士、セラピスト他)を体験することができる実習方法の構築と臨床講義の実施 ・リーダー、メンバー役割を実践するためのシャドーイング実習の工夫 ・外来と病棟を連携した継続看護実習を体験するこ 	令和2年9月	<p>一宮研伸大学看護学部の4年生を対象とした「総合看護実習」において、小児看護学領域助教として臨地実習指導を担当した。病棟実習では、病棟・外来を連携した複数受け持ち看護実習を行い、入院から退院までの継続看護を経験した。また、チーム内で、リーダー、メンバー役割を経験できるように支援した。児童館、子育て支援センター実習、乳幼児健診の体験を行い、地域の中で生活するこどもと家族を包括的に理解することを支援した。</p>

事 項	実 施 年月(日)	概 要
<p>とができる実習方法の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で生活するこどもと家族の理解を深めるための工夫（児童館、子育て支援センター、乳幼児健診の体験実習） （一宮研伸大学、総合看護実習） ・学習目標を明確にするためのシラバス、実習要項、記録用紙の作成と、オリエンテーションの実施（学内代替実習版を含む） ・学生の学びを促進することを目的とした、臨地実習指導者とのオンライン会議の実施 ・Zoom を活用したグループワークの促進 ・発達評価演習、危険予知トレーニングを活用した学内代替実習 ・国家試験問題を実習課題に取り込んだ学習支援 ・教育用電子カルテとシミュレーション演習を併用した学内代替実習 ・Zoom を用いて臨床と遠隔で協働した学内代替実習 （一宮研伸大学、こどもの健康生活支援看護実習） 	<p>令和 2 年 9 月～令和 3 年 7 月</p>	<p>一宮研伸大学看護学部の 3 年生、4 年生を対象とした「こどもの健康生活支援看護実習」において、小児看護学領域助教として臨地実習指導を担当した。実習要項を作成し、病棟実習の主担当、外部施設との調整業務を担当した。学内代替実習では、教育用電子カルテ教材とシミュレーション演習を行い、看護実践場面臨床と遠隔で共有した。学生が臨地実習指導者から助言をもらい、本来の実習目標を達成できるように支援した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ICT を活用した講義とグループワークの工夫（Zoom を用いたオンライン学習、自作の講義・演習動画をオンデマンドで配信） ・ワークシートを活用した事前、事後学習の促進 ・感染に配慮した学内演習の実施 ・臨床と共同して作成した看護過程の事例作成（急性リンパ性白血病・川崎病・RS ウイルス感染症） ・グループワークと発表、解説を組み合わせた看護過程演習 ・自作の視覚的教材を用いた技術演習 ・事例を基にした状況設定シミュレーション演習 （一宮研伸大学、こどもの健康生活支援看護Ⅱ） 	<p>令和 3 年 4 月～7 月</p>	<p>一宮研伸大学看護学部の 3 年生を対象とした「こどもの健康生活支援看護Ⅱ」において、小児看護学領域助教として講義・演習を担当した。事前課題に基づき、講義中に事例展開を行い、患児と家族をイメージすることができるように支援した。看護過程演習は解説とグループワーク、課題提出を組み合わせ、学生の理解を促した。演習科目は、講義時間数や使用教室を増やし、事前に演習で用いる DVD を YouTube 動画で視聴することで、演習での学びを促進した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・課題演習とグループワークの活用したゼミナール（レポートの書き方、文献検索の方法と実践、文献クリティーク） ・テーマに沿った、文献検索とクリティーク ・テーマに沿った文献検討結果の発表 ・オンライングループワーク （一宮研伸大学、連携ゼミナールⅠ） 	<p>令和 3 年 4 月～令和 3 年 11 月</p>	<p>一宮研伸大学看護学部の 2 年生を対象とした「連携ゼミナールⅠ」において、小児看護学領域助教として科目責任者とともにゼミナールの担当を行った。ゼミナールはグループワーク形式で実施し、課題テーマの決定、文献検索、文献リストの作成、論文抄読会を行い、先行研究のまとめを最終課題とした。文献抄読会、中間発表、最終発表会を行い、関心を持ったテーマに対する先行研究のまとめ考察できるように支援した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を明確にするためのシラバス、実習要項、記録用紙の作成と、オリエンテーションの実施 ・学生の学びを促進することを目的とした、臨地実習指導者とのオンライン会議の開催 ・チームで看護を実践することを学習するために、固定チームナーシングを経験することのできる実習方法の構築（複数患者の受け持ち看護実習） ・多職種との関わり（看護師、保育士、セラピスト他）を体験することができる実習方法の構築と臨床講義の実施（オンライン会議の実施） ・リーダー、メンバー役割を体験するために、多重課題を用いたシミュレーション演習の工夫 ・地域で生活するこどもと家族の理解を深めるための実習施設の工夫（児童館） （一宮研伸大学、総合看護実習） 	<p>令和 3 年 9 月</p>	<p>一宮研伸大学看護学部の 4 年生を対象とした「総合看護実習」において、小児看護学領域助教として実習指導を担当した。多重課題事例を作成し、状況設定シミュレーションを臨地と遠隔で共有することで、学内実習ではあったが、実習室での複数受け持ち看護実習を再現する工夫を行った。Zoom を通して指導者に報告や相談を行い、助言をもらう経験をすることで、臨地実習で経験するチーム看護を学習することができるように支援した。</p>

事 項	実 施 年月(日)	概 要
<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を明確にするためのシラバス、実習要項、記録用紙の作成と、オリエンテーションの実施 ・学生の学びを促進することを目的とした、臨地実習指導者とのオンライン会議の開催 ・国家試験課題を用いた事前学習の工夫 (一宮研伸大学、こどもの健康生活支援看護実習) 	令和3年9月～11月	一宮研伸大学看護学部の3年生を対象とした「こどもの健康生活支援看護実習」において、小児看護学領域助教として臨地実習指導を担当した。病棟との調整業務、保育園実習における書類提出等の調整業務を担当した。病棟実習では4日間で学生が受け持ち患児の看護過程の展開・実践・評価ができるように支援した。病棟実習で必要な知識について、国家試験課題を用いて、理解を深める工夫を行った。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
論 文	「小学生に対する心肺蘇生教育の実践と検討」～教育前後の知識及び救命に対する気持ちの変化の考察から～(査読あり)	共	令和2年3月	平成29年度愛知県看護協会研究助成報告論文集	橋本侑美、西村あゆ美 p.26-35
	教育用電子カルテ教材を用いた小児看護学領域代替実習の実践報告ー臨地と遠隔で協働した状況設定シミュレーションー(査読あり)	共	令和4年2月	一宮研伸大学看護学部紀要、第1巻	橋本侑美、田前英代、加藤千明 p.27-32
学会発表	BLS を命の授業につなげるための教育方法の検討～小学生に対するBLS教育における教育前後の振り返りからの考察～(査読あり)(口頭発表)	共	平成30年7月21-22日	第28回日本小児看護学会学術集会(名古屋)	橋本侑美、西村あゆ美 p.96
	「命の授業につなげるための心肺蘇生教育の実践」～児童の教育前後における BLS 手技の自信の程度と教育を通して感じたことの考察～(査読あり)(口頭発表)	共	令和2年6月27-28日	第30回日本小児看護学会学術集会(神戸) *オンライン開催	橋本侑美、西村あゆ美 p.126
	NICU を持たない施設の看護職を対象とした新生児蘇生法(NCPR)継続教育の実態調査～実践につながる教育方法の検討を目指して～(査読あり)(口頭発表)	共	令和3年6月26-27日	第31回日本小児看護学会学術集会 *オンライン開催	橋本侑美、井上真理子、田中理恵、長瀬光莉、伊藤礼美 p.100
	NICU を持たない施設における新生児蘇生法講習会後の実態調査～A病院小児病棟の現状と課題～(査読あり)(口頭発表)	共	令和3年6月26-27日	第31回日本小児看護学会学術集会 *オンライン開催	伊藤礼美、長瀬光莉、橋本侑美、田中理恵、井上真理子 p.99
NCPR 受講後の活用状況の実態と課題～NICU を持たない施設における小児病棟・産科病棟・手術室ス	共	令和3年9月28-29日	第52回日本看護学会学術集会 *オンライン開催	井上真理子、田中理恵、橋本侑美 p.245	

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
学会発表	タッフの現状～ (査読あり)(ポスター発表)				
その他	一宮市支援センター講習会 「こんなときどうする?!こどもの事 故と急病時の対応」		令和3年4 月28日	令和3年一宮市子育て 支援センター講習会(育 児講習会)	橋本侑美 令和3年度版いちのみや子育て 支援ハンドブック p.1